

川島 典子 教授の模擬授業

社会 福祉

地域のつながりと子育て支援 —ムーミンパパやスナフキンのいる国フィンランドとノルウェーの子育て—

講師：川島 典子

私の研究テーマは、ソーシャル・キャピタル(地域のつながりやネットワークなど)です。ソーシャル・キャピタルが豊かな地域は、犯罪も非行も少なく、政治は安定し、子供達の学力も向上して、住民の健康度は高くなり、合計特殊出生率も向上するといわれています。ソーシャル・キャピタルには、結合型、橋渡し型など様々なタイプがあります。

フィンランドは、ソーシャル・キャピタルを国の政策にいち早く取り入れた国で、とても子育て支援の進んでいる国です。皆さんは、ムーミンを知っていますか？ムーミンの作者は、フィンランドで生まれました。ムーミンには、スナフキンが登場しますね。あのスナフキンのように、旅人みたいな希薄であるけれども縛られない橋渡しの結びつきを橋渡し型ソーシャル・キャピタルといいます。また、ムーミン一家のように地元へ根づき、地縁を結ぶ固い結びつきを結合型ソーシャル・キャピタルといいます。その双方が豊かであることが子育て支援には必要なのです。その他、パパの育児休暇取得率が100%のノルウェーの子育てについてもお話しさせていただきます。

■ 受講人数の目安：40人～100人程度

■ 所要時間の目安：60分

■ 高校でご準備いただきたいもの：パソコン(PPT使用可のもの)、ホワイトボード

社会 福祉

お祖父ちゃん・お祖母ちゃんが認知症にならないようにするためには？ —地域で支える介護と介護予防—

講師：川島 典子

私の研究テーマは、介護予防です。介護予防とは、要介護状態になることを予防することをいいます。80歳を過ぎて転んで大腿骨を骨折すると、多くの高齢者が寝たきりになるため、転ばないように筋肉を鍛える体操をする「転倒骨折予防」や、「認知症予防」、「閉じこもり予防」などが、それに該当します。

たとえば、認知症予防教室では、どんな事をするのでしょうか？人の左脳は20歳を過ぎると発達しないといわれていますが、右脳は80歳を過ぎても刺激すれば活性化します。右脳を刺激するためには、歌を歌ったり、絵を描いたりすると良いといわれていますね。しかし、私達は、右脳だけ、左脳だけを使っているわけではなく、双方を同時に使っています。ところが、認知症になると、そのスイッチができなくなるのです。ですから、認知症を予防するためには、右脳と左脳を同時に使うことをすれば良いといわれています。

この出張講義では、認知症予防教室の実際その他、介護や介護予防を支える制度、ソーシャル・キャピタル(地域のつながりやネットワーク)による介護予防のお話もさせていただきます。

■ 受講人数の目安：40人～100人

■ 所要時間の目安：60分

■ 高校でご準備いただきたいもの：パソコン(PPT使用可のもの)、ホワイトボード